



第 31 回 例会 報告 (2月20日)

【 出 席 報 告 】

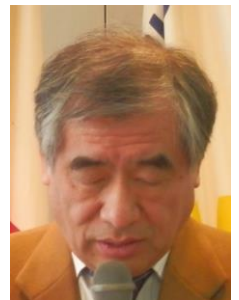
・会員数	53名	・出席数	33名	・欠席数	20名
・当日出席率	67.34%	・前々回修正出席率	87.76%		

<欠席会員>青野(賢)、原田、原、檜垣(巧)、平田、川上、吉良、小堀、近藤、桑森、眞鍋、光藤、村上(裕)、西本、越智、大澤、竹田、田中
 [免除会員] 青野、松本
 <2/6 欠席補填>(1/25 米山)村上(修) (2/3 今治北)吉良 (2/4 今治南)岡本、矢野 (2/10 今治北)平尾
 (2/10 高松北)檜垣(俊) (2/18 今治南)西本

- ◆**会長報告**・今治に愛媛県下で今年初めてインフルエンザ警報が出されました。お気をつけてください。
- ◆**幹事報告**・水源の森事業にお繰り合わせの上、ふるってご参加ください。
- ◆**親睦活動委員会・軟式野球同好会**・今年は甲子園出場が決まっています。3月末入金ですのでよろしくお願い致します。・親善軟式野球大会は5月25日午前9時よりウエルピア伊予で行われます。今年のガバナ一杯は80周年記念事業と重なるため不参加です。

ロータリー創立記念例会

◆**西信正男会長卓話**:ポール・ハリスが友人3人とシカゴロータリークラブを創立したのが1905年2月23日。以来109年、現在では200以上の国と地域に34,558クラブ、1,220,155人(2013年6月30日RI公式発表)を数えるまでになりました。私が入会した2001年が162カ国に30,140クラブ、約119万人でしたから、この10年ほどでも発展していることがうかがえます。ただし日本国内に関しては当時2,307クラブ/11.6万人だったものが現在では2,281クラブ/8.9万人に減少しています。▼ここで前原勝樹第2680地区パストガバナー著の「ロータリー入門書」から、創立当時のことを少し紐解いてみます。ポール・ハリスは純真な弁護士。しかし彼の住むシカゴは不況下にあり、破産・倒産は日常茶飯事、ギャングは横行、金の亡者の集まりの街とさえ言えました。当然のことながら依頼人はいろいろで心休まることがなく、人間らしい気の許せる仲間と集いたいと思っていたのです。彼の周りにもユダヤ人の団体、弁護士の団体、あるいは出身大学ごとの団体など、いろいろな組織が存在していましたが、それらは一様に権威の壁が高く、周囲との差を感じずにはいられませんでした。▼一業種一人に限定し、本部を置く会館を持たず、会員の事務所を持ち回って会合を開くスタイルから、RCはすべてが平等とされました。それこそが現在のように入会者が増え、世界的発展を遂げた一因と言えるでしょう。そう、当時は奉仕が旗印ではなかったのです。公正な取引がしたい、信頼できる仲間を増やしたい、ということがRC創立の根底にありました。それが証拠になぜRCを創立したのか、という問い掛けに対し、初来日したポール・ハリスは「寂しかったから」と答えています。▼奉仕(service)への転換点は1908年、経営学者であったアーサー・フレデリック・シェルドンの入会でした。彼は後に公式標語にもなった「He profits most who serves his fellows best. (仲間に最も良く奉仕する者は最も多く報いられる、現在はhis fellowsは削除、HeをOneに変更)」を唱えます。「ロータリーの友」平成17年2月号の「切手が語るロータリー100年」によると、1921年に英国エディンバラで開かれた米国外初開催となるRI国際大会を記念して作られたラベルには「Service Not Self (無私の奉仕)」と記載されているそうです。これが「Service Above Self (超私の奉仕)」へと変遷し、四大奉仕に青少年奉仕が加わっていくことになるのですが、それ以前の昭和26年に今治青少年ロータリーの会(=当時)を発足させていたことは誇らしいことだと思います。▼このほかロータリアニズムとは何か、ということについて「ロータリーの友」平成22年1月号などに詳しく記載されていますので、興味のある方はぜひお読みください。



<ビジター>今治南 RC 越智昇二様<鉄骨工事>、今治南 RC 野間照博様<菓子販売>

次 回 例 会 (2月27日)

【 IM報告 】

<配偶者誕生祝>	鎌田 義継氏 (3/4)			
<結婚記念日祝>	近藤 正人氏 (3/4)	飯 忠悟氏 (3/5)		
<入会記念日祝>	宮本 哲夫氏 (2/27)	檜垣 賢二氏 (3/1)	平田 勝豪氏 (3/1)	
	西信 正男氏 (3/2)			

[俵屋]